



# 神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報夏休み特集増刊号(第9号)

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2000年9月24日号, No.9

## 夏休み特集増刊号の目次

- 1、増刊号発行にあたり ~巻頭挨拶~
- 2、有珠山噴火復旧支援活動報告
  - 伊達武者まつりで「真夏のサンタクロース作戦」(2000/8/6)
    - 永山報告分(写真:村井)
  - プロジェクトBoo/うすゆめファイナル(2000/8/12)
    - 永田報告分(写真:山本)
  - 洞爺湖温泉町クリーン大作戦除灰作業(2000/8/5~31)
    - 村井、永山報告分(千葉RBメンバーと合同)
    - 山本報告分(千葉RBメンバーと合同)
    - 矢代報告分(沼津RB、広島RBメンバー等と合同)
- 3、会報編集部(?)のなんでも探検Vol.1
- 4、文豪ノリだーのコラム
- 5、自分にとってのボランティアって?
- 6、お問い合わせは/広告

## 増刊号発行にあたり

副代表 山本泰彦



少しずつ秋が近づいてきました。ふと夏を振り返ってみると、実は神奈川RBの中で近隣RBのメンバーと協力し、さらに他のネットワークや団体と協力する場面が多数ありました。個人レベルではありましたが様々な活動、それも災害復旧支援や被害に遭った方々へのイベントのお手伝いなど具体的なものでした。

有珠山噴火は今年の春でした。それから数ヶ月。

現地はまだ「復興」には程遠い「復旧」のさなかでした。

「真夏のサンタクロース作戦」

「プロジェクトBoo/うすゆめファイナル」

「洞爺湖クリーン大作戦 火山灰除去作業」

この夏、それぞれ時期や内容が異なっても、有珠山噴火災害復旧支援の活動のため、バイク乗りにはあこがれの地である北海道で汗流したメンバーからの報告が寄せられました。僕自身も現地に入りましたが、現地の様子、そこで見せられたもの、それらがこの夏休み特集増刊号で少しでも伝えられたらと思います。

また今、三宅島噴火災害で全島避難という状況があります。今は危険からの「避難」ですが、いずれ、島に戻り「復旧」「復興」が必要となるときが来ます。そのとき僕らには何ができるでしょう?

災害によって求められるもの、行動は違います。自分が助けられる側になることもあります。これらを考えるきっかけになればと思います。

## 有珠山噴火復旧支援活動報告

### 8/6 伊達武者まつりで「真夏のサンタクロース作戦」

報告: 永山充、写真: 村井浩久



千葉RBから夏の伊達市の祭りにバイクでプレゼントを運ぶ「真夏のサンタクロース」や除灰作業の協力依頼を受け、当初の予定では、青森ねぶたに行ってくるだけだったのを、北海道まで足を伸ばすことにしました。祭前

日の5日は洞爺湖温泉町の除灰作業と会場の下見。

初めは、伊達武者祭りに物資の搬送をする予定だった「真夏のサンタ



クロース作戦」でしたが、祭りの規模の大きさなどを考えこちらは進行上、祭りの運営の方にまかせてしまい、子供へのプレゼントも主催者に渡し専ら祭り見物と「全国の学校に火山灰を送る運動」のお手伝いをしてい

ました。これは、除灰体験タイムレースで安藤さん@千葉RBと競争し



て安藤さんよりも早く火山灰を袋に詰めたら賞品が貰えると言った物でその収益は「全国の学校に火山灰を送る運動」の送料に充てられました。夕方、宿に戻って温泉に入ってから村井さん@神奈川RBが帰路につか

れました。

6日9:30~16:30 伊達市内にて伊達武者祭り「全国の学校に火山灰を送る運動」のお手伝い参加者(近隣RB含む)まとめ

・村井、永山@神奈川RB、安藤、池田、岡田@千葉RB

以上5名(敬称略)

### 8/12 プロジェクトBoo/うすゆめファイナル

報告: 永田雅人、写真: 山本泰彦



例年壮瞥町で行われる「昭和新山火まつり」が中止となったため、ぜひ火をやってみんなで遊ぼうという発想が有珠山ネットで生まれ、更に豚と羊の丸焼きを食べようという企画も合体、1つのイベントになりました。

「親と先生の会主催夏休み子供お楽しみ大会」

通称「プロジェクトBoo」復興に願いを賭けて虻田町月浦で行われました。前日から会場設営、手配、準備、そして目玉のひとつである豚・羊

羊の仕込みをスタッフが済ませました。



当日は昼頃から子供たちがやってきて、くじ引き・輪投げ・シャボン玉遊びなどを楽しんでいきました。おもちゃが手に入るということで、子供たちは辺りをかけずり回っていました。スタッフが疲れてしまうくらい

子供たちは元気でした。ステージではコンサートやトークが行われ、ここでも楽しみの声が聞こえました。



夕方が近づき、遊びの場は調理場と変わりました。

焼き鳥や野菜が焼かれ、更に仕込まれていた豚や羊も金網に乗りました。子供たちも大人たちも食べ物の前に群がり、今や遅しと焼き上がり

を待っていました。人々の食欲に終わりはありません。

外が暗くなってきました。



花火屋さんから大量に提供された花火で遊びまわりました。これは全国の皆さんから寄せられた寄付により実現できました。

子供たちは次々と花火の袋を空にしていき、辺り一面は、まばゆい光と煙に覆われました。すぐに種火が消えてしまうため、火の管理も大変

でした。

最後にスタッフたちによる、21世紀への希望の演出が・・・

実は有珠山ネットで活動する、とある夫婦の「婚礼の誓い」でした。

笑い、はしゃぎ、子供たちは迎えにきたバスで帰っていきました。

参加者(近隣R B含む)まとめ

・渡辺、永田、山本@神奈川R B

以上3名(敬称略)

### 8/5 ~31 洞爺湖温泉町クリーン大作戦除灰作業

参加者(近隣R B等含む)まとめ

8月5日

・永山、村井@神奈川R B、安藤、池田、岡田@千葉R B

8月7日

・永山@神奈川R B、安藤、池田@千葉R B

8月13日

・渡辺、山本@神奈川R B、丸山@千葉R B

8月16日

・矢代@神奈川R B

8月17日

・矢代@神奈川R B、三橋、清水@日本救難バイク協会静岡支部

8月18日

・矢代@神奈川R B、団体120名

8月19日

・矢代@神奈川R B、前田@沼津R B、杉野@広島R B、団体120名

### 村井浩久報告分(8月5日)



5日午前10時半ごろから昼食を挟んで、1時半まで除灰作業。

道路や歩道など機械が入れる所は除灰されているのですが、家と家の隙間など、個人レベルでやらなければならない所を除灰します。

地元の方に「自分達がしなくても外から来た人たちが、除灰してくれる」と誤解されないように、一人暮らしの老人、もしくは自主的に除灰を行っている家を優先的に手伝うそうです。灰は前日の雨を含んで、粘土状に。5cm前後くらい積もった灰をスコップですくい、土嚢袋に詰めるのは腰が辛く、結構な重労働。

灰は乾くと、完全な砂状になり、風で舞上がりやす。汚れても良い格好で行い、陽射しがあるとかかなり暑いので、水分補給に注意をはらう必要がありました。『味ー』さんというラーメン屋さん除灰ボランティアの人のために、トイレと麦茶を提供して下さいました。

洞爺湖温泉街のメイン通りになる230号線は駐停車禁止でしたが、噴火口を見るためにかなりの車が停車しようとしていました。今もまだその場所の火口2~3箇所から水蒸気が噴き出しています。灰を降らし、たまに岩石を噴き上げています。その際の衝撃波でふすまが揺れたりひどい時は建物自体が揺れる事があるそうです。また、街中に硫黄の匂いがたどよみます。メインの通りは灰も少ないのですが、一本裏に入ると、もう住む事ができなくなった家もありゴーストタウンのようで道路にも灰がつもっていました。



今回、火口から700mほどの(一番火口に近いホテル)『北海ホテル』に宿泊しました。中には準備がはかどらず営業できない所や、営業していてもガラガラだったりするところもありました。火口を見にくる車は多いの

ですが、宿泊者はまだ少ないようでした。店も少しずつ営業を始めていようですが、温泉街の夜8時だというのに、通りに人はいませんでした。私達が出会った方々は、被災を自然の事としてそのまま受け止めていました。私達よりも被災された方々の方が未来を見て、ポジティブでした。復興には何年もかかります。三宅島のことで忘れかけていますが、歩みを孤立させないようお手伝いして行きたいと思います。

### 永山充報告分(8月5日、7日)

8月5日

早朝、函館上陸10時過ぎに洞爺駅にて合流。除灰の対象は独居老人宅でご自身でも除灰作業を行っているお宅から除灰を行うというものでした。ご自身では1日に5袋が精いっぱいと言っていました。

我々5人で実質2時間位の作業でおよそ50袋の除灰でした。その後、FMレイクトピアのスタジオを見学し伊達武者祭りの会場へ向かい明日の下見をしてこの日は宿に戻って休みました。宿は噴煙を上げる火口に一番近いホテルで時折噴石も混じっているのが見えました。

8月7日

9:30 除灰作業受付、10:00 除灰作業開始

5日と同じお宅の残りの除灰作業に取り掛かりました。この日は、5日

よりも水分が少なくなって多少作業はやりやすかったです。灰を全て取除いた後に降雨などによって流入してくる灰を防ぐために土のうでダムを造って流入してくる灰がそこに溜まるようにしてお年寄りでも除灰しやすいようにしました。ただ除灰をするだけでは雨によって流れてくる灰でまた除灰をしなければならぬので、できるだけ簡単にお年寄りでも除灰が出来るように工夫しておきました。

NHKの取材クルーが入りました。その日のニュースで除灰作業の様子が流れたいです。(北海道内の地方版)

12:30 除灰作業終了。我々の作業していたお宅でおよそ100袋の除灰が完了。おばあちゃんのうれしそうな笑顔が印象的でした。来てよかったと実感しました。また、もう少し時間があればとも思いました。

#### 除灰作業の装備

カッパ(下)(汚れても水で洗える)

長靴(降雨時にはあったほうが良い)

替えの靴(昼食時などに店に入るときは靴を履き替えたほうが良い)

帽子(降灰がある為)

バイクカバー(これが無いとバイクに灰が積もります)

マスク・ゴーグル(かわりに「うが」薬と「目薬」を持っていきます。)

軍手・スコップは現地で支給(軍手は汚れるので2~3枚必要)

#### 山本泰彦報告分(8月13日)



午前9時半、受付。

午前中は路地裏の除灰作業を行ないました。この日は風向きも悪く、硫黄の臭いと細かい灰の粒子がバラバラと降ってくるのが分かるほどでした。路地裏は日陰のままのところ

が多、灰というよりも泥という状態だったため、灰の重みで長時間作業を続けると辛かったです。途中、おばあちゃんからジュースの差し入れがありました。その差し入れを頂きながら休憩し、路地裏の1区画の除灰を済ませました。土のうは泥



流ゆけに積み、後になって灰が流れてきても除去しやすいようにしておきました。午後は8月後半に団体での除灰作業の申し入れがあるとの事、そのときにどこを除灰すれば

良いのか判断する材料を集めるため地図を持参し、火山灰調査を行いました。特に斜面での火山灰量と側溝のつまりなどを調べました。調査の中で先の自衛隊被災地想定訓練での情報収集の方法などを実践する場となりましたが、予想以上に除灰した後でも火山灰が多くなっているところや保養所など無人となっているところの灰がその下側の民家に流れているのが分かりました。これについては本部のほうで対策を考えたいとの話でした。調査も重要な作業だと感じました。

#### 矢代幸雄報告分(8月16日~19日)

活動履歴は以下の通り。

16日~18日終日、虻田町洞爺湖温泉街にて除灰作業。

19日午前、虻田町洞爺湖温泉街にて除灰作業。



19日午前、除灰ボランティア本部正村氏案内による現地視察。

一連の作業を終え帰りの船中では、暇だったために会報のための執筆活動を行っていました。今回の支援活動はまさしくバイクを降りてもできるボランティアというものであることを実感しました。また写真を見ても手をつけられていない地域があり、まだまだ有珠山噴火の傷は深いものだという事を肌で感じました。



現地写真: 除灰ボランティア本部提供 (公開許可済み)

## 会報編集部(?)のなんでも探検Vol.1

会報担当 山本泰彦

増刊号もよく出没する山本泰彦がこんなコーナーも作ってみた。というも今、これを書いているのが、その探検先なのだ。第1回でもある今回の探検先は(株)レスキューナウ・ドット・ネット。



R Bとの連携も模索中の会社だ。この日は三宅島から避難されている方への支援のひとつとして呼びかけられているテレカ募集に応え、みんなから預かったテレカを持っていくのを「口実」にその会社へと向かったのだった。行ってみると、倉庫を間借りした会社で設立は今年4月とのこと。有珠山や三宅島の噴火でいきなりのデビューという形になる。主な業務はインターネットを使った災害情報の収集と発信、携帯電話等への災害情報の配信サービスなど。すでに現在、消防やRの運行状況をはじめ、三宅島噴火情報などほぼ365日24時間体制で発信されている。ちなみに「



マイルスキュー」はモニター募集開始から50時間で定員になり締め切られる勢いであったり、新聞等で取り上げられるなど、その活動、業務について着実に関心が高まってきている。社長市川さんによると、今は手探りでも試験運用等を重ね、少しずつ実績を積んで行政などに様々な情報やサービスを提案、提供して行きたいとのこと。RBに対しては「RBの方と会うと、『ああ、RBの人だなあ』ってなんとなく分かる。なんででしょうね。」と意味づつその機動力とうまく連携を取っていきたく語った。現在、三宅島ネット、(株)レスキューナウ・ドット・ネットでは、三宅島の情報発信をはじめ、通信、連絡用のテレカの支援を呼びかけている。それらの情報は、三宅島ネット「島魂(とうこん):<http://www.miyakejima.net/>(株)レスキューナウ・ドット・ネット:<http://www.rescuenow.net/>に掲載されている。内容をご確認の上、ぜひご協力を。

## 文豪ノリだーのコラム

手塚則生

「なつあかね」



7月に尾瀬の向こう側までツーリングに行きました。単調な国道を避けて、旧道の峠道に入った途端に、なにやらスゴク速く飛ぶ羽虫がピシピシとぶつかって来ました。それはそれは夥しい数の謎の虫。ゴーグルにも胸にも肩にもピシピシと、到底避けられない勢いで突進して来ました。ぶつかる瞬間には、肩をすくめて目を瞑ってしまうものです。峠でバイクを停めると、それが小さな“赤トンボ”だと気がついて、不思議な気持ちになりました。僕が子供の頃は、横浜の北の端に位置する我が家の辺りにも、かなりの田んぼがあったので、当然秋になれば“赤トンボ”を良く見たものでした。我が家の庭にも、2つ繋がった奴が良く来ていたっけね。でも、赤トンボは秋のトンボだと思っていたのです。正しい名前も、“あきあかね”と言うのだと記憶していました。でも、その時急に思い出したのが小学校の理科の授業か、はたまた国語の授業で、「赤トンボは、秋になると山から降りて来るんだよ」と言う先生の言葉でした。なるほど。町に住む僕の知らないうちに、山では秋の使者が、既に準備を整えて居たのでした。いや、山に住む人達にとっては、小さな赤トンボは、夏の風物詩なのでしょう。相棒のバイクのミラーに休む小さな赤トンボが、とてもかわいく見えました。そのツーリングから帰って来て偶然見たテレビで、夏の赤トンボは“なつあかね”と呼ぶのを知りました。なるほどね。町育ちの僕にとっては、その呼び名も縁の薄いものだったのね。行く夏も惜しいけれど、早く涼しくなって欲しいものです。

おしまい

コラムはいつでも募集中！  
次はなにかな？  
乞う御期待！

## 自分にとってのボランティアって？



永山充

ボランティアとは  
「人との繋がり(ネットワーク)と自己満足」  
私にとってこの除灰作業が災害ボランティアとしての初めてのボランティアになりましたが、バイクを使わなくてもバイクを降りてもボランティアには関係が

ないのだと実感しました。

ボランティアとは被災者に感謝されることを目的とするのではなく、何かをして欲しいという呼びかけに応えて何かをしてあげたい。何かをしてあげたいという自分の欲求を満たして、それをすることによって得られる充実感・達成感。その副産物として感謝さたりするのではないのでしょうか。

待っているだけでは呼びかけはなかなか聞こえてこないものです。一人で耳を澄ましているよりも大勢の人で耳を澄ましていたほうが多くの声が聞こえてきます。

そのために、人との繋がり(ネットワーク)を大きなものにして小さな声も聞こえるように、そしてその声に応えられるようになりたい。人との繋がり(ネットワーク)とは自分の欲求(何かをしてあげたい)を満たすために必要だと再確認しました。

今回の除灰作業は千葉RBの呼びかけに応えた形になりました。これからも多くの呼びかけに応じて自分の欲求を満たしていきたいと思えます。

私にとってのボランティアとは

「人との繋がり(ネットワーク)と自己満足」  
ではないかと私は思いました。

## お問い合わせは

### 神奈川RB事務局

代表：山田泰、事務局長：矢代幸雄

郵送先：〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
かながわ県民運動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862 (取次ぎ：レターケース No.81 宛て)

URL: <http://cools.com/kanagawarb>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者：神奈川RB会報担当 山本泰彦

神奈川RB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなでいきましょう！



関西風・広島風 お好み焼き 「おにがわら」

10月からは、特製の「おでん」「関西風ねぎ焼き」11月から「かき入り広島風お好み焼き」を期間限定でメニューに加えます。

店主：中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel:0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンドハケ岳ホテル前

夏季(7・8月) 11:30~14:30、17:30~20:30

(火・水定休、祝日は営業)

上記以外の期間 11:30~14:30、17:00~20:00 (火・水定休)